

## 第三者評価結果

### A-1 利用者の尊重と権利擁護

		第三者評価結果
A-1-(1) 自己決定の尊重		
【A1】	A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「チャレンジシート」という名称の個別支援計画の書式を使用し、利用者が自ら目標を設定して活動を行う支援を実践しています。モニタリングも同様に利用者が参加して行っています。グループごとの支援会議が毎月行われ、日ごろの活動の成果を評価し、実質的な支援方法の見直しや個々の生活に応じた合理的な配慮の利用者支援に反映しています。利用者の落ち付いた生活環境につながった事例として、リラクゼーションルームにはソファやぬいぐるみを配置したことがあります。その他、一人で過ごせる居場所がいたるところで確保されています。ゲームや画像の閲覧などを好む利用者も多いとのことで、タブレットを設置することで利用者の生活の安定につながっている利用者がいます。自閉症の障害特性から人とコミュニケーションをとることは困難で、利用同士話し合う機会は持つことができませんが、利用者同士が刺激しあわないように配慮し生活ルールが設定されています。</p>		
A-1-(2) 権利侵害の防止等		
【A2】	A-1-(2)-① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人の「職員倫理行動綱領」、「職員倫理行動マニュアル」を整備し、職員としてあるべき姿や行動規範を示しています。マニュアルには職員と利用者との適切な関係性を保つための51項目の職員の心得を具体的に明記し、職員の注意を喚起しています。利用者に対しては、重要事項説明書で事業者の義務としての安全配慮義務、説明義務、守秘義務、身体拘束の禁止や虐待防止等について説明しています。施設長は、職員会議で権利侵害についてのロールプレーを行い、人権擁護や身体拘束廃止に関する職員の意識の強化を図っています。やむを得ず身体拘束を実施することもあり得ることから、具体的な手続きを明文化することが必要です。身体拘束に関する発生・発見から防止策まで身体拘束を行わないための手順とマニュアルの整備が望まれます。</p>		

### A-2 生活支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 支援の基本		
【A3】	A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>個別支援計画(チャレンジシート)には「本人(家族)の希望、今年目標、なりたい・やりたいこと、やってみること、チャレンジ期間」といった項目について、自己決定を尊重し利用者の言葉で記述されています。チャレンジシート、モニタリングシートにはふりがなをふり、写真で理解できるようにして、職員が利用者と思いを共有しながら作成している様子が見えます。日々の生活の場は、障害の程度により5グループに分けられていて、グループごとに利用者特性に応じて支援内容を検討し支援の方法を決めています。自閉症の特性から、見守りの姿勢が支援の基本となっています。自立生活をめざす支援として外出し商店で買い物をし、調理をする活動があり、利用者が楽しみにしています。利用者には好きなことをやり、役に立とうとする気持ちがあります。毎月実施される余暇活動のカラオケや喫茶には、利用者のほとんど全員が参加しています。</p>		

【A4】	A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員は、自閉症に特化した支援の専門性の向上に努めています。自閉症の障害特性として、利用者は意思疎通や他者とのコミュニケーションを苦手としています。職員の倫理行動マニュアルでも大声を出したりしないように規定しています。コミュニケーションが困難な利用者との意思疎通は、ほとんど行動から推し量るようにしています。職員は、日々接する中で判断し、利用者にも好きな作業と嫌いな作業があることに配慮し、利用者の意志や希望を尊重した支援に努め支援記録に書き留めます。急な変更は写真で伝えるなど、情報の伝達には写真を使い、文書にはふりがなをふって、理解できるように配慮していますが、利用者の思いの表出の支援はまだこれから取り組む課題です。施設では、タブレット端末が複数用意されています。利用者はゲームをしたり、動画を見ているとのこと。そうした障害特性に沿ったコミュニケーションの手段を増やしていくことが望まれます。</p>		
【A5】	A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「チャレンジシート」では、本人の「目標」が立てられています。利用者自身が見て納得することを前提として、「見やすくわかりやすく」「文字だけではなく写真やイラストで伝える」「本人に必ず提示する」ということが、支援者の共通認識となっています。個別支援計画が、「チャレンジシート」として、利用者の意思や主体性を尊重するスタイルになっているのは、施設独自の工夫があり、施設の利用者の意志を尊重する姿勢がうかがえます。支援者主体の計画や課題克服の計画にならないよう、「～がしたい」「～がしたくない」といった利用者の意思を、本人の言葉としてチャレンジシートに落とし込むことを目指し、職員間の共有を図っています。</p>		
【A6】	A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「お金を貯めたい」というチャレンジシートでの利用者の意思表示が、作業の意欲の向上へとつながった事例があります。作業のメニューは支援会議や各作業ルームでの日々の検討により、様々なメニューが用意されています。施設内の様々な場所でスーパーバイザーの助言があり、様々な活動が用意されています。「何かをする」ことが一日のルーティーンになっているので、支援者は外部からも情報を得て、手作りで作業メニューを工夫したりしています。昨年度は余暇活動や行事が毎月行われていて、ほとんど全員が喜んで参加しています。調理実習なども行われており掃除を活動として行っている様子が見られます。「役に立つこと」を嬉しく思う利用者が多く、そうしたことが活動へのモチベーションにつながっているようです。今後も楽しく過ごせるような活動が活発になることを期待します。</p>		
【A7】	A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>TECCHプログラムの研修に参加し、外部のスーパーバイズ、定期的な「自閉症eサービス」のコンサルテーション、エリアごとの法人からの支援など、専門知識の習得や向上には恵まれた環境が用意されています。事業計画でも、技術を学び常に新しい取り組みにチャレンジする姿勢が明記されています。特に最近では、利用者を担当する精神科医が月二回、定期的に施設を訪問し支援の振り返りを行うためのミーティングを行い、支援の方法についてのアドバイスをしています。評価キットを購入したり、アセスメントを行うことを始めていますが、これまで、アセスメントを行った実績が乏しく、十分な障害による行動や生活の状況が記録されていません。個別支援計画も、利用者の自己決定を重視する一方で、個別支援計画の見直しに合わせてアセスメントを行い、利用者ニーズを反映する取組が期待されます。</p>		

A-2-(2) 日常的な生活支援		
【A8】	A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>嗜好の偏りが強く、野菜が苦手な利用者が多いものの、食事の時間が待ち遠しく、食べるスピードも速いとのこと。食堂では、時間になると座って他の利用者さんと一緒に食事をする様子が見られます。利用者の誕生日には、その方の好きなメニューが用意されケーキも添えられています。委託による調理ですが、調理室はオープンになっていて、食堂と調理スペースはカウンター越しに見渡せ様子をうかがうことができます。運動量が少ない利用者が多く、排便の困難があったり、糖尿病の基礎疾患を持つ方もいます。日常生活の支援については、自立している利用者がほとんどですが、排泄の誘導が必要な利用者もいます。それぞれの生活支援は、支援会議で検討され適切に行われていると言えますが、日常生活支援マニュアルを整備し、個々の障害特性に応じた支援の標準化が期待されます。</p>		
A-2-(3) 生活環境		
【A9】	A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>自閉症の施設として利用者にとって個別の空間を用意することが必要であり、各居室は仕切られ作業スペースも個別に確保されています。休憩室や運動スペースも作られています。個室は少なくスペースを作るために、様々な工夫がされていますが、布やロッカーを使用しているため地震などの際の安全対策が求められます。有事の際には、パニックや避難行動がとりにくい利用者への対策が求められます。火災防上問題のない素材を利用するなど、環境整備を行っていくことが望まれます。居室・共有スペース共にきれいに清掃されて、臭いもなく、明るく快適な生活環境です。職員アンケートでは男性トイレの数が少ないとの指摘があり、今後の対策が望まれます。女性の支援者が男性利用者をトイレ前まで誘導する場面がありましたが、同性介助の取組の対策の検討が期待されます。</p>		
A-2-(4) 機能訓練・生活訓練		
【A10】	A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>以前は桜ヶ丘中央病院からPT・OTが月一回の訪問リハビリに来所していましたが、現状では、重度障害者向けの対応に限定し、外部のスーパーバイザーや精神科医のアドバイスを受けています。日々の日課では、作業の時間が大半を占めていて、訓練が行われていますが、毎月1回のグループごとの支援会議で、大変きめ細やかに利用者の訓練の内容を検討しています。職員間で共有できるよう支援内容を掲示しています。運動不足対策としてのスペースや、作業のキットには手作りの物もあり、支援者の工夫がうかがえます。TECCHプログラムの研修、関係書籍などを参考に訓練のツールが用意されています。モニタリングは6か月に1度行われていますが、個別支援計画と連動した支援内容ではなく、モニタリングは、計画的な訓練や支援の検討見直しと連動したものは言えません。機能訓練・生活訓練に関わる支援計画を作成し、計画に沿った訓練実施の工夫が望まれます。</p>		
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援		
【A11】	A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>通所時毎日検温を行い、また、排泄チェック表を用いて排便の状況を確認し、利用者の体調の変化を把握しています。医者の指示に応じて毎日血圧測定を行っている利用者がいます。毎年10月に定期健康診断を実施し、採決検査やレントゲン検査を実施しています。他に年一回生活習慣病検診を実施しています。協力医の精神科医が月二回往診し利用者の診療にあたり、利用者の精神的な問題に関する相談等に応じています。利用者の日常の健康管理に関するマニュアルの整備が望まれます。また、緊急時対応マニュアルを整備し、利用者が発作で倒れた時など緊急時にすべての職員が迅速かつ適切に対応できる環境整備が望まれます。</p>		

【A12】	A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>現在医療的対応が必要な利用者はいませんが、喀痰吸引や経管栄養処置研修を受けた職員2名を配置し、必要に応じて医療的処置を行う環境整備を行っています。糖尿病の利用者の2名については、医師の指導のもとに毎日血圧を測定し、食事や運動量について管理し健康維持に努めています。また、食物アレルギーの利用者対策として、食材の事前チェックを徹底し食事に含めないようにしています。医療的ケアに関する支援マニュアルの整備は今後の課題です。</p>		
A-2-(6) 社会参加、学習支援		
【A13】	A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>神奈川県主催のスポーツ大会に利用者が参加します。また、江の島外出やいちご狩りなどグループでの外出、ふれあいコンサートへの参加等、利用者が積極的に参加できるように支援し利用者の社会参加を促進しています。休日はガイドヘルパーを活用し利用者の希望に沿った外出ができるように支援しています。近くのスーパーに一人で行って買い物をしたい利用者には、職員が利用者に寄り添い一人で行けない理由を一つづつ解決しながら自立できるように支援しています。自閉性の障害特性から社会参加を躊躇する利用者が多い状況ですが、利用者一人ひとりが積極的に社会参加を希望するように、支援の仕組みの工夫が期待されます。</p>		
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援		
【A14】	A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用者の地域移行に向けた自立支援に努めています。職員は、リービングケアの中で作業の手順を利用者自らが考え、教えてもらわなくても自らが判断し作業の順序を組み立てることができるように支援しています。また、一人で過ごせる時間・空間を長くすることで、また、他人との関わりの中で本人が地域で安心して生活ができるように指導しています。アフターケアにおいては、本人を支援していたグループリーダーが連絡窓口になり、いつでも本人が相談できる環境を整えています。利用者の地域生活の継続については、家族の高齢化の状況の変化の中での支援が求められ、レスパイトケアやショートステイの利用など関係機関の利用について情報を提供しています。</p>		
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援		
【A15】	A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>連絡帳を活用し家族とのコミュニケーションを図っています。連絡帳以外にも必要に応じて職員が家族を電話を入れて利用者の状況を伝えます。職員は、家族がいつでも施設を訪問してくれるように相談しやすい雰囲気をつくりを心掛けています。家族アンケートに86%の家族が相談したり、意見を言いやすい雰囲気があると回答しています。緊急時の連絡等を明記した対応マニュアルがありません。マニュアルを整備し、全ての職員が利用者の障害状況に応じて統一的な急変時の対応ができる環境整備が望まれます。</p>		

### A-3 発達支援

		第三者評価結果
A-3-(1) 発達支援		
【A16】	A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	
<コメント> 対象外		

### A-4 就労支援

		第三者評価結果
A-4-(1) 就労支援		
【A17】	A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	
<コメント> 対象外		
【A18】	A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	
<コメント> 対象外		
【A19】	A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	
<コメント> 対象外		